

# インタビューダイアログ 12月7日(日)9:00~10:20

今回のインタビュアーは、志々田まなみさんですが、急病のため、仙波英徳さんが務めます。

仙波：この集会は、みなさんが持ち寄った実践を交流することで、みなさんが元気になるという会。肩を張らずに気楽に自分の話をしてほしい。

## NPO おのみち寺子屋

柿本：軸は「人づくりはまちづくり まちづくりは人づくり」そして、好循環の人づくり。今年で23回目になる「おのみち100km徒歩の旅」は、小学生4~6年生が高校生、大学生と4泊5日をかけて歩くプログラム。目的は、挑戦、忍耐、感謝、感動。また、指導者である大学生のために、「人間力育成塾」を開催している。1月から12月までの流れで、1月はリーダー育成支援事業、5月リーダー養成、夏は本番、研修が終了した後は、フィードバック研修。自己分析・ライフラインチャート等で成長を振り返ってもらう。2年以上の参加を条件にしているが、1年目と2年目、違う体験をしてもらうことによって、この活動の意味をきちんと語れるようになってほしい。大会に必要な、ビジネスマナーや協賛金集め等も学生が行う。地域・学生・OBが循環する“学びの生態系”を構築する。この体験事業によって子どもも学生も成長していく。

## 久米わくわくチャレンジサタデー

仙波：愛媛大学の学生が企画・運営する地域連携実習。月1回、久米小学校の5、6年生とゲームや授業、体育館での遊びを通じて、授業づくりの難しさや面白さを実感し、教育実習では得られない学級経験の実践を得ることができる。

高橋：愛媛大学教育学部4年生。経験することによって、子どもの反応を見ながら授業を改善する力を身につけた。また、後輩学生の育成にもかかわって、活動の継続にも貢献した。

杉野：授業企画・運営を通じて教員としての視点を深めることができた。また、「学級づくり」の重要性を実感。活動の魅力も後輩に自信をもって伝えることができた。

仙波：久米の活動には、最初からかかっているため、その魅力も分かっているつもりであるが、両団体とも、複数年で成長する仕組みであることや先輩から後輩へつなぐこと、学校・地域・大学・NPO等が連携していること、子どもも学生も共に育つという共通項がある。

柿本さんに、どうして事業を始めようと思ったか。

柿本：尾道の青年会議所理事長をしているときに、日本青年会議所で九州の筑紫で100km徒歩の旅をされている人がいて、実際に見に行った。帰りの新幹線の中で、これは尾道でもやらなければ、

インタビュアー：仙波 英徳

発表者：NPO おのみち寺子屋

柿本 和彦

：久米わくわくチャレンジサタデー

高橋 ひなの

杉野 美音



やりがいのある事業だと思った。チームとして青年会議所メンバーと参加したので、第1回目は事業として開催、その後紆余曲折があって、現在の形になった。

## その他

NPOおのみち寺子屋

Q:100km徒歩の旅で、辛いところは。

A:小学生は、班編制をするが、知らない友だち同士、そんな中で長い時間一緒に過ごすのは嫌。1、2日目は、小さなたこができただけで歩かないような子どもがでてくる。しかし、ゴールしたときは、家に帰りたくない、友だちと離れたくないと泣き出す子どももいる。サポートする学生も、ゼロからつくるため、一生懸命準備をするが、それが役に立たなかったときなど辛いと思う。



参加者から

★小学生の時にのおのみち100km徒歩の旅に参加。大学生になってぜひ、あのときの恩返しをしたいというのがきっかけで、現在も社会人参加をしている。参加者からたくさんのエネルギーをもらっているのが、モチベーションにつながっている。

★ずっとは続けていないが、ブランクがあっても戻りたいところに戻れるのが嬉しい。

★人の力が大きい。次の世代へたすきを渡すことができる。

久米わくわくチャレンジサタデー

Q:地域連携受注室の木村さんにひとこと。

A:ワクチャレを17年ほど見守っている。1、2回生が、先輩たちの一生懸命やっている姿を見ながら成長していく姿がいい。2人で授業していくが、1年通して深まりがあって、さらに次につなげることがあって素晴らしいと思う。学生は授業の前に、何度も繰り返したり、工夫をしたり、その頑張りの姿がいい。

Q:愛媛大学の教職総合センターの高橋さんにも

A:学生主体で素晴らしい。先生が主導する中、子どもたちの中に入って行くのではなく、学生が自分でやりたいことを試しているのでもいい。自分たちで一生懸命つくって、試行錯誤して、協議会で話し合っ、次回に活かしている。そして、多くの方に支えられています。評議会で指導助言の先生を呼ぶが、卒業生であったり、先生になっている人に来てもらったりと、それが循環につながっている。ワクチャレのメンバーの中にも、久米小学校で参加、それで自分もやりたいという学生もいる。

仙波：地域でなにを、どう起こしていくか、継続することはなかなか難しいが、いろいろ知恵を出しながら、焦らず、できることから続けて行く必要がある。



# おでん∞café 12月7日(日) 10:30~12:20

今回のお題

なんてたって地域教育！

回し人：舟田 美加

田房 克寿

ファシリテーター：NPOおのみち寺子屋の

みなさん

ひとつむぎの学生 2名



## おでん∞café とは

おでんの具が混じり合うことによって、ひとつの具だけでは出せない美味しい出汁ができあがるのと同じように、立場の違う人たちが交流することによってよりよいものへと導き合う。

## 進め方はワールドカフェ方式

4~6人程度の小グループに分かれて、テーマに沿って自由に語り合う。時間が来たら席替えをして別のメンバーと対話。最後に元のグループに戻り全体を共有する。

今回のファシリテーターは NPO おのみち寺子屋の学生のみなさんおよび徳島県特定非営利法人ひとつむぎの学生。

導入として、昨日の振り返り。舟田、田房で掛け合いしながら進めていく。

おでんカフェが始まる。まずはグループ内で自己紹介。「なんてたって地域教育」がお題なので、“私、実は〇〇なのですが…”という一言添えて。

テーブルの上に模造紙を広げて、ポストイットで埋めていく。時間が来たら、ホスト（ファシリテーター）を残して違うグループに参加、対話を深める。3、4回繰り返し、元のグループへ戻り、対話で得られたことを話す。

全員の前で、話したいグループには発表してもらう。



田房 克寿氏



舟田 美加氏

## 閉会挨拶 浅野 長武

地域教育は、「手放して行く教育」。子どもが自分で考え、助けを求められる環境づくりが必要である。

そこで、多くの人とのつながりが大切、教育を豊かにする。

前回に引き続き若い人たちの参加が多数。昨夜は随分盛り上がったことと思う。

来年もまた、この場所で会いましょう。